



## 障害のある人もない人も発見、ぼくの、わたしのスポーツ チャレスポ！TOKYO

9月18日（月・祝）、パラリンピック競技をはじめとする様々な障がい者スポーツが体験できるイベント「チャレスポ！TOKYO」が東京国際フォーラムで開催され、本学も協力団体として関わり、学生12名が運営ボランティアとして活動しました。

アスリートとともにパラリンピック競技種目等の体験ができたり、オリンピック・パラリンピアンと都知事とのトークショーが行われるなど、東京都と東京都障害者スポーツ協会が主催するこのイベントは、障がいのある人もない人も一緒にスポーツを楽しみ、障がい者スポーツに対する理解を深めてもらうことを目的に開催されました。

障がいのある人もない人も、小さな子どもたちから高齢者の方まで多様な世代の人たちが2万人集まり、大盛況でした。

### ・活動の様子

朝7時30分に集合し、朝のオリエンテーションが行われました。ボランティアスタッフ用のピンク色のTシャツが配布され、注意事項の説明や活動の担当が割り振られました。首都大生は、①車いすテニス・車いすバドミントン、②車いすバスケットボール・ウィルチェアーラグビー、③ペギーボール・車いすレーサー体験、の3つの体験コーナーを担当しました。それぞれ受付で体験人数の調整をしたり、待機列の整理、終了後のスタンプ押印、ボール拾い、コート整備、声をかけて応援するなど、参加者が楽しめるように笑顔で盛り上げていま

した。

各競技のアスリートの方がルールや方法を説明してくださり、対戦することができのですが、参加者は初体験のスポーツに苦戦している様子でした。障がいのある人もない人も、小さな子どもから高齢の方まで、同じルールのもとに同等に対戦し、本気で悔しがったり喜んでいる場面も多く見られ、障がいの有無や年齢を超えて熱くなり楽しむことができました。

### ・参加した学生の声

- 今回、ボランティアの参加は初めてで少し不安だったのですが、同じブース担当のメンバーが全員首都大生だったこともあり、緊張することもなく、楽しく参加することができました。休憩中にイベントにも参加でき、障がい者スポーツのことも知ることができて、とても楽しかったです。
- 車椅子の方、視覚障がいの方、聴覚障がいの方、またその方を支える方々と関わる事ができ、障がいと言っても多種多様であり、サポートの方法も様々である事を強く実感しました。
- 障がい者スポーツのルールを知り、やっている方々を見て、工夫次第で障がいのある方も健常者と同じように活動できる可能性がある事を感じました。スポーツだけでなく日常生活でも、何かを工夫すれば障がいのある方が健常者と同じような生活を送れるのではないかと考えました。

# チャレスポ！ TOKYO

報告

2017/9/18



朝のミーティングの様子

アスリートの方から、ルールやボランティアの役割について説明を受けた。



車いすテニスの体験サポート



集合写真

ボランティアも競技も体験することができ、自分たちも楽しみながらイベントを盛り上げた。